

平成25年度事業報告

法人本部(管理部)

1 理事会・評議員会開催状況

理事会および評議員会を下記のとおり実施した。5月開催の理事会、評議員会は前年度(平成24年度)事業報告および決算報告、9月の理事会、評議員会は新規事業に伴う定款変更が主要議題であった。11月の理事会、評議員会は平成25年度上半期事業報告、補正予算および役員改選、平成25年12月の理事会は理事長選出が主要議題であった。平成26年3月の理事会、評議員会は次年度(平成26年度)事業計画および収支予算が主要議案であった。いずれも事務局提案どおり承認された。

[理事会]	第82回理事会(平成25年度第1回)	平成25年5月28日開催
	第83回理事会(平成25年度第2回)	平成25年9月25日開催
	第84回理事会(平成25年度第3回)	平成25年11月26日開催
	第85回理事会(平成25年度第4回)	平成25年12月5日開催
	第86回理事会(平成25年度第5回)	平成26年3月25日開催
[評議員会]	第48回評議員会(平成25年度第1回)	平成25年5月28日開催
	第49回評議員会(平成25年度第2回)	平成25年9月25日開催
	第50回評議員会(平成25年度第3回)	平成25年11月26日開催
	第51回評議員会(平成25年度第4回)	平成26年3月25日開催

2 運営概況

(1) 法人経営

理事長および役員級職員による経営会議を定期的に行い、新規事業、人事等の重要事項について意思決定を行った。事業執行は各事業部および各事業所の管理職によって構成する運営会議を定期的に行い迅速かつ円滑な事業運営を行った。

(2) 人事労務等

平成25年度から新給与表に基づき4号俸の定期昇給を実施した。一時金は前年度実績を支給した。10月の最低賃金改定にあわせて一部の非常勤職員の時給単価を改定した。資格取得支援を行った。

(3) 予決算および会計

平成25年度当初予算は職員採用や給与改善等に伴う人件費増により新規積立を見送り、収支均衡の予算を編成した。その後、学齢後期障害児支援事業、ケアホーム(2か所)など新規事業の開始、利用実績増による収入増、設備改修工事費を東山田地域ケアプラザ運営委託費から支出したこと等により収支が改善し、3月補正では2,500万円の積立と700万円の黒字を見込んだ。さらにその後、高齢部門の通所介護事業や障害部門の共同生活介護事業の利用実績増等により収支が改善した。この結果、資金収支上の決算は積立額を3月補正より1,200万円増額して3,700万円の新規積み立てを行い、約720万円の黒字となった。

3 事業概況

(1) 事業関係

新規事業として平成25年4月から「横浜日吉就労支援センター」(横浜市健康福祉局委託)、12月から「学齢後期発達相談室くらす」(横浜市こども青少年局委託)、平成26年2月からケアホーム「ハウスJOY」(磯子区)、3月からケアホーム「ハウスK」(都筑区)の事業運営を開始した。日中活動事業所については、就労移行支援事業と就労継続B型の多機能事業所だった「ワークアシストやまびこ」を、生活介護事業所「リンク」(定員10名)に事業変更し、「アイテック」(定員10名)は「リンク」の従たる事業所として生活介護事業所に事業移行した。あわせて就労移行支援事業所「ワークアシス

ト」(定員20名)を新規開設し、就労移行事業を継続した。その他、前年度に引き続き厚生労働省から障害者総合福祉推進事業、発達障害者支援者実地研修事業を受託し、発達障害のある人の就労支援セミナー運営マニュアルの作成および研修生の受入を行った。

(2) 苦情解決事業関係

平成25年度は苦情の申し出はなかった。前年度(平成24年度)発生した苦情、事故事件、ヒヤリハット等を苦情解決事業・第3者委員に報告し、事故防止、利用者支援の向上、福祉サービスを充実させるための報告会を平成25年12月に開催した。

4 その他

長期修繕計画に基づき「東やまたレジデンス」「東山田地域ケアプラザ」の空調設備更新および防水工事を実施した。

障害福祉部門

事業第1部

市内北部方面の入所施設、通所施設、ケアホーム、移動支援および居宅支援など大規模施設から地域点在型小規模施設、地域生活サービスなど多種の事業を所管するため運営理念や支援方針を確認し、デイ全体ミーティング、ナイト全体ミーティングを毎月行った。「東やまたレジデンス」は地域移行担当を配置した。「ヘルパーセンターやまびこ」は居宅介護事業のグループホームへの導入を行った。地域課は高機能自閉症者を対象としたケアホームを開所した。

施設支援1課(東やまた工房)

1 事業概況

生活介護(定員38名)、短期入所(定員1名)、日中一時支援(定員1名)の障害福祉サービスを提供した。常勤職員6名を配置して二つの作業室を一体的に運営し、支援内容の見直しを行った。2月からの新設ケアホーム開設準備のバックアップをした。

2 事業実績

(1) 利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア) 障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	2	6	5	13
	女	0	0	0	0	0	1	0	1
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	3	11	2	16
	女	0	0	0	0	0	1	1	2
療育手帳 B1	男	0	0	0	1	0	2	1	4
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳 B2	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	男	0	0	0	1	5	19	8	33
	女	0	0	0	0	1	2	2	5

(イ) 年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	1	5	12	14	1	33	37.8歳
女性	0	0	2	3	0	5	40.8歳
計	1	5	14	17	1	38	38.0歳

(ウ) 利用期間状況

	～1年	1年～ 3年	3年～ 5年	5年～ 10年	10年～ 15年	15年～	計	1人当たり 平均入所期間
男	1	4	3	12	4	9	33	11年 6か月
女	0	0	2	1	0	2	5	10年 10か月
計	1	4	5	13	4	11	38	11年 5か月

(エ) 長期入院等状況

状 況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ) 利用方法状況

自 力	8
保護者送迎	9
送迎バス	3
そ の 他	18
計	38

(カ) 利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要通所日数	21	21	20	22	17	19	22	20	19	19	19	20
平均通所日数	19	19	19	21	16	18	20	19	18	18	18	18

(キ) 入退所状況

入所者	入所日	居住区	備 考
19歳(男性)	H25. 4. 1	都筑区	県立高津養護卒

退所者 なし

(2) 短期入所事業(定数: 1名)

①利用状況(宿泊延べ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	20	21	25	15	24	24	24	22	22	21	23	260

②障害程度区分状況(実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合 計
男	0	0	0	6	5	5	16
女	0	0	0	0	1	0	1

③年齢別状況(実数)

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳～	合 計
男	2	8	3	3	16
女	0	0	1	0	1

(3) 日中一時支援事業(定数: 1名) のべ 0日・実数0人

3 支援状況

①支援の骨子

個別支援計画に基づき企業(6社)から受注した作業を中心に支援を行った。

②日中支援

受注作業の他に、共用場所の清掃や洗濯活動などを提供した。

③余暇支援

宿泊旅行は各作業室の利用者ごとに3回実施した。平日レクは夕方にボウリング、カラオケなど行った(5回)。

④生活支援

ケアホームや家庭と連絡を取り、生活全般について情報共有に努めた。定期健診、通院同行、嘱託医(精神科・内科)による医療相談を行い健康管理につとめた。

施設2課(東やまたレジデンス)

1 事業概況

生活介護(定員50名)、施設入所支援(定員40名)、短期入所(定員4名)、日中一時支援(定員2名)を提供した。体制は課長以下3係制とし、各係は9名体制とした。看護師は1名で施設全体をみた。日中支援と生活支援の役割分担を整理し、統一的な対応による安定したサービスを提供した。地域移行担当主任を配置し、入所待機者を受け入れるためユニットコンセプトや環境改善計画、職員配置計画、短期入所受入れ枠の増加計画等について検討した。安全管理委員会を開催し衛生管理、健康管理等に対応した。社福士受験資格や教員免許取得等の学生実習、特別支援学級の生徒実習を受入れた。他施設・機関からの実習、見学希望も増加した。施設等へのコンサルテーションも含め自閉症支援の専門的な支援施設としての役割を担った。昨年度に引き続き厚生労働省から「発達障害者支援者実地研修事業(強度行動障害)」を受託し、12日間の研修カリキュラムを2クール、計11名の受講者を受け入れた。

2 事業実績

(1)生活介護事業(定員：50名)

①利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア)障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	0	6	32	38
	女	0	0	0	0	0	0	5	5
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	2	1	4	7
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳 B1	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	男	0	0	0	0	2	7	37	46
	女	0	0	0	0	0	0	7	7

(イ)年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	1	3	18	22	2	46	39.8歳
女性	0	1	2	3	1	7	40.5歳
計	1	4	20	25	3	53	39.9歳

(ウ)利用期間状況

	～1年	1年～ 3年	3年～ 5年	5年～ 10年	10年～ 15年	15年～	計	1人当たり 平均入所期間
男	2	3	1	5	6	29	46	14年10か月
女	0	1	3	0	0	3	7	10年4か月
計	2	4	4	5	6	32	53	14年2か月

(エ)長期入院等状況

状況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ)利用方法状況

自力	0
保護者送迎	11
送迎バス	2
その他	40
計	53

(カ) 利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要通所日数	22	23	22	23	19	21	23	22	21	21	20	22
平均通所日数	21	21	21	22	18	20	22	21	20	20	19	21

(キ) 入退所状況

入所者	入所日	居住区	備 考	退所者
19歳(男性)	H25. 4. 1	港北区	県立みどり養護卒	なし

② 支援状況

係ごとに日中支援中心の職員を配置し、作業エリアごとに安定した運営をめざした。自動車部品の梱包作業、空缶リサイクル作業を継続した。自立課題を媒体として生活全体をわかりやすく過ごせるよう環境調整や対応見直しを行い、行動障害を軽減し安定した生活の維持に努めた。日中活動の柱である職業的生活に考慮しながら休憩の過ごし方や軽運動など余暇活動や健康維持についても配慮した。

(2) 施設入所支援(定員：40名)

① 利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア) 障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	0	4	21	25
	女	0	0	0	0	0	0	4	4
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	1	3	2	6
	女	0	0	0	0	1	0	1	2
療育手帳 B1	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	1	0	1	2
合計	男	0	0	0	0	1	7	24	32
	女	0	0	0	0	2	0	6	8

(イ) 年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	0	1	13	17	1	32	40.6歳
女性	0	0	3	4	1	8	42.3歳
計	0	1	16	21	2	40	40.1歳

(ウ) 利用期間状況

	～1年	1年～ 3年	3年～ 5年	5年～ 10年	10年～ 15年	15年～	計	1人当たり 平均入所期間
男	0	2	0	0	6	24	32	16年 8か月
女	1	1	0	0	0	6	8	13年 9か月
計	1	3	0	0	6	30	40	16年 1か月

(エ) 長期入院等状況

状 況	人 数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ) 入退所状況

入所者	入所日	居住区	備 考
43歳(女性)	H25. 7. 1	港北区	まろんワークス
退所者	退所日	居住区	備 考
41歳(男性)	H25. 3. 31	港南区	在 宅

②短期入所事業(定数: 4名)

(ア) 利用状況(宿泊延べ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
121	141	151	139	129	124	131	136	149	118	118	130	1,587

(イ) 障害程度区分状況(実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	1	7	22	18	48
女	0	0	0	3	3	3	9

(ウ) 年齢別状況(実数)

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳～	合計
男	2	22	16	8	48
女	0	3	3	3	8

③日中一時支援事業(定数: 2名) のべ24.75日・実数36人

④支援状況

生活場面での支援を進めた。グループホーム移行を控え、安定した生活を継続できる支援環境の調整、職員体制の変更に備えたスタッフワークの整備を行った。行動障害に伴う支援度の高い利用者が多い一方で、毎年新任職員が配置され、ローテーション勤務のあることから支援者が変わっても安定的に暮らしを支援できる仕組み作りを行った。加齢に伴い健康管理、感染症予防など医療対応の必要性が高く、定期検査を含めて通院支援も増加した。年齢の変化に応じた暮らしや運動機能の維持、余暇活動の開拓なども実施した。

地域支援課

生活介護事業「まろんワークス」

1 事業概況

「まろんワークス」は欠員補充のため新規利用者1名を受入れた。職員1名が平成26年1月末より産休に入ったが補充をしないで対応した。従たる事業所「YOU」は昨年度の常勤職員3名体制から2名体制としたため業務全体の効率化をはかった。トイレ改修工事、送迎車輛の購入配備等の環境整備を行った。

2 事業実績

(1) 生活介護事業(定数24名・現員27名)

①利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア) 障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A 1	男	0	0	0	0	1	2	2	5
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
療育手帳 A 2	男	0	0	0	0	5	8	2	15
	女	0	0	0	0	2	0	0	2
療育手帳 B 1	男	0	0	0	1	0	1	0	2
	女	0	0	0	0	1	0	0	1
療育手帳 B 2	男	0	0	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	男	0	0	0	1	7	11	4	23
	女	0	0	0	0	3	0	1	4

(イ) 年齢別状況

『まろんワークス』

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男	0	4	0	7	0	11	36.4歳
女	0	0	0	2	0	2	44.8歳
計	0	4	0	9	0	13	37.7歳

『YOU』

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男	0	5	5	2	0	12	34.0歳
女	0	0	1	1	0	2	35.9歳
計	0	5	6	3	0	14	34.3歳

(ウ) 利用期間状況

『まろんワークス』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	1	1	0	4	5	0	11	8年 0か月
女	0	0	0	0	2	0	2	11年11か月
計	1	1	0	4	7	0	13	8年 7か月

『YOU』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	0	3	3	6	0	12	8年10か月
女	0	0	0	0	2	0	2	12年 4か月
計	0	0	3	3	8	0	14	9年 4か月

(エ) 長期入院等状況

(オ) 利用方法状況

状 況	人数	自 力	14
1か月以上3か月未満の継続入院者	0	保護者送迎	7
3か月以上の継続入院者	0	送迎バス	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0	その他	6
3か月以上の継続帰宅者	0	計	27

(カ) 利用日数状況

『まろんワークス』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	21	20	22	17	20		
平均通所日数	21.0	21.0	19.0	20.8	16.3	19.0		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	23	21	20	19	19	20	243	20.2
平均通所日数	20.8	19.0	18.8	18.7	18.6	19.8	232.8	19.4

『YOU』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	20	21	20	22	17	20		
平均通所日数	19.4	19.1	18.2	20.8	15.1	18.3		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	23	20	20	19	19	20	241	20.1
平均通所日数	20.0	17.9	17.8	17.9	17.0	18.4	219.9	18.3

(キ) 入所(まろんワークス)

入所者	入所日	居住区	備 考
20歳(男性)	H25.4.1	都筑区	H24.3聖坂養護学校専攻科卒業

(2) 日中一時支援事業 (定数: 2名) のべ日37日・実数7人

(3) 支援状況

『まるんワークス』

① 日中活動・作業内容

情報誌の折込み・配布、商品名シール貼り、文房具組立・包装を継続した。都筑区受託「クリーンタウンセンター北駅清掃事業」を継続した(週1回、利用者2名・職員1名)。

② 生活状況

外食、公共交通機関の利用など地域生活技術の習得支援を行った。「YOU」「アイテック」と共同で宿泊レクを実施した。特別支援学校生徒の実習を受入れた。

③ その他

日中活動の様子をビデオに記録し保護者に伝えた。施設内で脚を骨折した利用者に対し通院同行やリハビリのためのストレッチ等を実施し、自力歩行が可能になるまで送迎車の手配を行うなど通所支援をした。

『YOU』

① 日中活動および作業内容

文房具組立・包装、ポストインク作業を継続した。ナプキン折り作業は9月で終了し、自動車部品組立を9月から開始した。

② 生活状況

ホームヘルパーやガイドヘルパーの利用状況を把握し、サービス調整を行った。「まるんワークス」「アイテック」と共同で宿泊レクを実施した。他法人グループホームへ入居が決まった利用者への面談や引継ぎを行った。

③ その他

雪やストライキ等で交通機関の乱れが予測された際は保護者やグループホーム職員、ガイドヘルプ事業所と連絡をとり帰宅支援を行った。

生活介護事業「リンク」

1 事業概況

平成25年4月から生活介護事業へ移行した。人事異動があったが混乱はなかった。「リンク」は利用者1名が就労に伴い退所した。通信制高校から実習生を受入れた。

2 事業実績

(1) 生活介護事業(定数20名・現員19名)

① 利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア) 障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	1	1	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 A2	男	0	0	0	0	3	1	1	5
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B1	男	0	0	0	1	3	2	1	7
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	2	1	1	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (身体2級)	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	男	0	0	0	3	8	6	2	19
	女	0	0	0	0	0	0	0	0

(イ)年齢別状況

『リンク』

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男	0	1	1	6	1	9	42.5歳
女	0	0	0	0	0	0	
計	0	1	1	6	1	9	42.5歳

『アイテック』

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男	0	3	4	2	1	10	37.0歳
女	0	0	0	0	0	0	
計	0	3	4	2	1	10	37.0歳

(ウ)利用期間状況

『リンク』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	9	0	0	0	0	9	1年0か月
女	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	9	0	0	0	0	9	1年0か月

『アイテック』

	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15年～	計	平均入所期間
男	0	10	0	0	0	0	10	1年0か月
女	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	10	0	0	0	0	10	1年0か月

(エ)長期入院等状況

状 況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ)利用方法状況

自 力	15
保護者送迎	1
送迎バス	0
その他	3
計	19

(カ)利用日数状況

『リンク』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	21	20	22	17	19		
平均通所日数	20.7	20.5	19.6	21.8	16.7	18.4		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	22	21	19	19	19	20	240	20
平均通所日数	20.6	20.2	17.9	18.7	18.0	19.8	232.9	19.4

『アイテック』

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
要通所日数	21	21	20	22	17	20		
平均通所日数	18.1	18.3	18.3	19.7	14.5	17.0		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要通所日数	22	20	19	19	19	20	240	20
平均通所日数	19.7	17.3	16.5	17.2	16.6	17.9	211.1	17.6

(キ)退所(リンク)

退所者	退所日	居住区	備 考
37歳(男性)	H25.6.30	金沢区	就労のため

(2) 日中一時支援事業(定数：2名) 利用実績：のべ0日 実数0人

(3) 支援状況

『リンク』

① 日中活動・作業内容

文房具類組立て・包装、プラスチック製品のシール貼り・包装、紙器製作、ゴム製品のバリ取り、情報誌の折り込み・配布の受注作業を行った。企業組合オリーブから清掃業務を請け負った。施設外作業として短期間企業内実習を行った。

② 生活状況

宿泊レクを実施した。移動支援事業利用者は支援方法の検討を行った。健康診断、インフルエンザ予防接種を実施した。

③ その他

高齢の保護者には個別支援計画の説明に家庭訪問した。特別支援学校生徒の保護者、ケースワーカーの見学を受入れた。

『アイテック』

① 日中活動および作業内容

建築部材の組み立て、文房具類組立て・包装、プラスチック製品のシール貼り・包装、紙器製作、密閉ビニール袋作り、ゴム製品のバリ取りなどを行った。

② 生活状況

利用者・保護者の希望を踏まえて「まるんワークス」「YOU」と共同で宿泊レクを実施した。移動支援事業利用者は支援方法の検討を行った。健康診断を実施した。

③ その他

養護学校生徒の保護者の見学を受入れた。平成24年に就労により退所者のフォローアップとして余暇活動実施に向けたガイドヘルプサービス利用支援を行った。

共同生活介護事業(ケアホーム)

1 事業概況

主任の役割を強化し、支援内容の把握、課題検討など横断的な調整を行った。下半期から3つのケアホームにホームヘルパーを導入した。週末利用が増加傾向にあるため、非常勤を含めて合理的な職員配置を行い、ホームヘルプ、ガイドヘルプサービスを絡めながら対応をした。新規ケアホーム「ハウスK」は発達障害者中心のホームとして平成26年3月末に利用者2名で運営を開始した。次年度に3名の入居を予定している。

2 事業実績

(1) 利用者概況(平成26年3月31日現在)

事業所名	定数	障害程度区分					性別		年 齢			
		2	3	4	5	6	男	女	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～
ハウスBEE	5	0	0	0	3	2	5	0	0	1	3	1
ハウスSEA	4	0	1	1	2	0	4	0	0	0	4	0
ハウスDOUX	5	0	0	0	1	4	5	0	0	1	3	1
ハウスEEL	5	0	0	3	1	1	4	1	0	0	5	0
ハウスF	4	0	3	1	0	0	4	0	0	1	3	0
ハウスG	6	0	0	1	3	2	6	0	0	0	5	1
ハウスi	5	0	0	1	4	0	5	0	1	2	2	0
ハウスK	5	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1
合 計	39	2	4	7	14	9	35	1	2	5	25	4

(2) 支援状況

①ハウスB E E

定期的な週末利用に備え職員配置を調整し、休日の過ごし方の組み立てを行った。10月からホームヘルパーを導入した。

②ハウスS E A

余暇活動として外食やカラオケを実施した。就労者の支援事業所変更に伴い定例の連絡調整会議を開催して情報共有に努めた。加齢に伴う腰痛の利用者にはスポーツインストラクターのアドバイスによるストレッチ等の支援をした。

③ハウスD O U X

てんかん発作の副作用によるふらつきや眠気が激しい利用者が階段から落下し負傷したため安全管理を強化し、主治医の変更と専門医の服薬調整により生活改善を図った。下半期に人事異動があったため新任職員の引き継ぎと支援体制を整備した。

④ハウスE E L

加齢に伴う健康維持のためエアロバイクを活用した。家事活動の一環として備品の洗濯を分担した。ホームヘルパーの導入に向けて申請手続きを行った。

⑤ハウスF

生活上の相談や報告を適時受け、不安が解決できるように支援をした。職業上のトラブルが生活全体へ影響を及ぼすため就労支援課と連携した。給与等の収入と支出を把握し、適切な金銭管理ができるように支援した。

⑥ハウスG

新任職員のため支援内容だけでなく安全・効率的に業務が進められるよう支援業務全体を見直し、リビングの環境整理も行った。余暇活動評価のためレクを実施した。

⑦ハウスi

開所2年を経過したが、身辺処理や家事スキル等の評価を行い、自立度を高める組み立てを継続した。不適切な歯磨き介助により口腔内を負傷した利用者に対して医療的な確認を行い、健康維持に努めた。

⑧ハウスK

担当職員をはじめ主任、課長が役割分担して開設準備にあたった。

ヘルパーセンターやまびこ

1 事業概況

介護給付事業として行動援護、地域生活支援事業として移動支援を実施した。行動援護事業の実施で収入増となった。10月から介護給付事業として居宅介護事業を開始した。利用者ニーズに応えるため行動援護従業者養成講座、ガイドヘルパー養成講座を実施した。関係事業者の要請を受けて講義内容のコーディネートや講師派遣をした。

2 事業実績

(1) 件数等

	利用件数	在籍ヘルパー	稼働時間	自立支援給付費等収入
移動支援 (前年度)	2,025件 (1,765)	74名 (67)	5,531.5時間 (4,907.0)	14,937,010円 (13,523,050)
行動援護 (前年度)	1,285 (887)	21名 (13)	3,391.0時間 (3,418.5)	20,735,986円 (16,209,427)
居宅介護 (前年度)	4件 (-)	8名 (-)	939.0時間 (-)	5,652,158円 (-)

* 下半期から実施

* 4ヶホームで実施

(2) 移動支援、行動援護の傾向

社会生活上必要な外出(買物等)が多数を占めた。家庭のレスパイトニーズが増加した。移動支援の1か月の総支給量が48時間から30時間に減少し、不足した利用者には計画相談と連携して行動援護への移行を行った。行動援護の対象とならない利用者は支給時間内の利用となった。

(3) 居宅介護の傾向

ケアホームの利用者には十分な支給決定が行われたが、ヘルパー不足(8名)が発生した。

(4) 養成研修事業

① 移動支援ガイドヘルパー養成講座(2回)

平成25年9月22日～9月27日(受講者21名) 平成26年2月11日～2月21日(受講者9名)

③ 第1回行動援護従業者養成研修(1回)

平成26年8月4日～8月25日(受講者10名)

③ 外部派遣等

・川崎市行動援護従業者養成研修(講師3名、ファシリテーター1名) スキルアップ研修(講師3名)

・茅ヶ崎市の社会福祉法人行動援護従業者養成研修(講師3名、ファシリテーター1名)

(5) ヘルパー会議等

勉強会4回:「親として」「事例検討」「ガイドヘルプ演習」「自閉症について」

事業第1部 苦情解決事業: 0件

事業第2部

施設支援3課(ポルト能見台)

1 事業概況

生活介護(定員50名)、短期入所(定員1名)、日中一時支援事業(定員2名)の障害福祉サービスを提供した。生活介護の利用者は新規利用者1名を加え、計58名であった。

2 事業実績

(1) 生活介護事業(定員50名)

① 利用者概況(平成26年3月31日現在)

(ア) 障害程度区分状況

障害程度区分		非該当	1	2	3	4	5	6	合計
療育手帳 A1	男	0	0	0	0	2	6	10	18
	女	0	0	0	0	0	1	0	1
療育手帳 A2	男	0	0	0	1	6	17	6	30
	女	0	0	0	0	0	3	0	3
療育手帳 B1	男	0	0	0	2	1	1	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
療育手帳 B2	男	0	0	0	0	1	1	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	男	0	0	0	3	10	25	16	54
	女	0	0	0	0	0	4	0	4

(イ) 年齢別状況

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計	平均
男性	1	24	18	11	0	54	32歳10ヶ月
女性	0	1	2	1	0	4	35歳2ヶ月
計	1	25	20	12	0	58	33歳0ヶ月

(ウ) 利用期間状況

年	～1年	1年～ 3年	3年～ 5年	5年～ 10年	10年～ 15年	15年～	計	平均入所期間
男	1	2	3	48	0	0	54	8年6ヶ月
女	0	0	0	4	0	0	4	8年11ヶ月
計	1	2	3	52	0	0	58	8年6ヶ月

(エ) 長期入院等状況

状 況	人数
1か月以上3か月未満の継続入院者	0
3か月以上の継続入院者	0
1か月以上3か月未満の継続帰宅者	0
3か月以上の継続帰宅者	0

(オ) 利用方法状況

自 力	20
保護者送迎	24
送迎バス	14
そ の 他	0
計	58

(カ) 利用日数状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
要通所日数	21	21	20	22	17	20	
平均通所日数	19.64	19.69	18.66	20.55	15.86	17.57	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要通所日数	23	21	20	19	19	20	243日
平均通所日数	20.21	18.60	17.33	17.47	16.95	18.62	221.1

(キ) 入退所

入所者	開始日	居住区	備 考
男性(18歳)	H25. 4. 1	磯子区	

(2) 短期入所事業 (定数 1 名)

① 利用状況 (宿泊延べ日数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	26	24	23	14	14	25	11	17	15	10	10	213日

② 障害程度区分状況 (実数)

区分	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	0	2	14	8	24人
女	0	0	0	0	0	1	1人

③ 年齢別状況 (実数)

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳～	合計
男	1	14	5	4	24人
女	0	1	0	0	1人

(3) 日中一時支援事業 (定数：2名) 利用者数16人 利用実績42.0日

3 支援および運営状況

(1) 体制

施設長(管理者・サービス管理責任者兼務)、支援係長2名、支援主任2名、事務員、看護師(非常勤)、栄養士を配置した。支援体制は2エリア(1エリア2グループ)に分け、各グループに支援員(正職員2、3名・非常勤1名)を配置した。共同生活介護事業所「ハウスヒルサイド」の宿直業務など後方支援を週に1～2回行った。

(2) 支援方針および内容

個別支援計画を策定し半期に1回の見直しを行った。4月に新規利用者1名を受け入れた。

(3) 日中支援

利用者の特性に応じた作業環境や日課を提供し、受注作業を中心に職業生活の充実に努めた。作業は組立(自動車スイッチ部品)、梱包(食膳セット/菓子等)、DMの封入、店頭販売用野菜箱の組立て、インクの詰替え作業など多岐にわたった。近隣の流通関係会社に利用者5～6名(職員1～2名付添)が出向き企業内作業、区土木事務所委託の公園清掃も継続した。

(4) 余暇支援

カラオケ(年3回)、プール(年6回)、宿泊旅行(年4回)など利用者が安心して楽し

める余暇を提供した。

(5) 短期入所・日中一時支援サービス支援

サービス提供日以外の希望に対しては入所事業所の利用を勧奨した。保護者の高齢化に伴い利用実績は増加傾向にある。

(6) 地域生活支援

共同生活介護事業所(ハウスヒルサイド、ハウスJOY)への車輛送迎、通所途上の付き添いや定期的な状況把握を行った。家庭生活や週末および通所の移動に困難をきたしている利用者には、区や地域活動支援センター等と連携して入所事業所の短期入所サービス、移動支援サービスの利用調整を行った。

(7) 運営関係(教育・学生実習・啓発活動等)

現任者訓練に加え、嘱託医や臨床心理士による研修および外部派遣研修を行った。現場実習として特別支援学校高等部生徒(1名)、福祉系大学生(2名)、他施設職員(3名)を受け入れた。施設見学として特別支援学校教員、特別支援学校在校生の保護者、他施設職員、当事者団体、地域関係者等(計20回・延べ92名)、ボランティア(2名・のべ7回)を受け入れた。

共同生活介護事業「ハウスヒルサイド」(定員5名)「ハウスJOY」(定員5名)

1 事業概況

「ハウスヒルサイド」は管理者、サービス管理責任者、係長(ポルト能見台兼務)、支援員(正職員1名)、非常勤2名(支援員、ハウスキーパー)の体制で支援を行った。11月から係長中心に新設ケアホームの準備を行い、2月下旬に「ハウスJOY」を開設した。支援員(正職員1名)、非常勤2名(支援員、ハウスキーパー)を配置した。「ポルト能見台」職員による後方支援(宿直、早番、遅番等)を受けた。日中活動は全員が「ポルト能見台」を利用した。

2 事業実績

(1) 利用者概況(平成26年3月31日現在)

<ヒルサイド>

①障害程度区別別状況

	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	1	0	2	2	5
女	0	0	0	0	0	0	0

②年齢別状況

	20歳～	30歳～	40歳～	合計
男	0	1	4	5
女	0	0	0	0

<ハウスJOY>

①障害程度区別別状況

	1	2	3	4	5	6	合計
男	0	0	0	0	4	1	5
女	0	0	0	0	0	0	0

②年齢別状況

	20歳～	30歳～	40歳～	合計
男	0	2	3	5
女	0	0	0	0

3 支援および運営状況

安心して健康的に暮らせる生活環境作りおよび個別の配慮を行いながらレストランの利用、日用品の買物、公共交通機関の利用など地域生活の幅を広げる支援を展開した。新規ケアホーム「ハウスJOY」は2月末に開所した。日中はポルト能見台を利用した。2か所のケアホームを安定的に運営するため平成26年3月からケアホーム担当の主任を配置した。

事業第2部苦情解決事業：0件

事業第3部

横浜市発達障害者支援センター

1 事業概況

年度途中に開所予定の学齢後期相談支援事業の職員確保のため新任非常勤3名(うち2名は年度途中から常勤)を配置した。新任職員を育成するため初回面接までに2か月の待機状況が続いた。通常の相談体制後も相談希望が多く待機状況は解消できなかった。

2 相談支援

(1) 支援件数(新規/継続)*重複有

	支援内容	実人数(*重複有)	のべ件数
相談支援	相談	545人	3,900件
	調整会議	129人	173件
	機関コンサル	12件	37件
就労支援	相談	222人	1,671件
	調整会議	11人	13件
	企業に対する啓発	1機関	1件

(2) 年齢内訳(新規/継続)

中高生期	15人
19～39歳	566人
39歳以上	77人
合計	658人

実支援人数658名(前年569名)のうち新規の支援人数287名(前年287名)、継続の支援人数は371名(前年312名)。新規相談者の男性199名(前年208名)、女性88名(前年79名)。

3 広報啓発・機関連携

(1) 研修事業

センター主催研修(8回・参加者295人)、講師依頼を受けた研修(25回・参加者1,257人)、地域住民向け講演会開催(4回・参加者113人)、企業等に対する啓発(1回・10人)

(2) 広報事業 『マンスリーやまた』を各月発行した(5月・7月・9月・11月・1月・3月)。

(3) 機関連携 会議出席(連絡会議等) 103件

4 発達障害者支援開発事業(モデル事業)

引き続き(株)kaienを実施主体とし、事業実施について担当マネージャーが必要な管理および助言を行い、平成26年3月に事業を終了した。内容は一般コース(春・夏・秋3クール)、学生コースの対象者選定、コース終了後のケースワークを行った。事業の進捗管理を行う企画・推進委員会を開催した(3回)。3年間の成果として報告書を作成し、就労支援関係者を対象に事業報告会を開催した。加えて3月29日に行われた世界自閉症啓発日のシンポジウム(横浜市と共催)で一般市民を対象に成果を報告した。

5 自立生活アシスタント事業

登録者人数:17人(男性12名、女性5名) 未登録相談ケース25名(男性16名、女性9名)

登録者生活状況:単身14名、障害者のみ家庭2名、家族同居(単身準備)1名

① 援助方法

	登録	未登録
面接(来所)	114件	56件
電話・メール・FAX	412件	84件
訪問	125件	8件
外出付き添い	73件	9件
合計	724件	157件

② 支援の内容(重複あり)

	登録	未登録
心理・情緒	276件	78件
医療・健康	280件	55件
消費生活	261件	34件
就労	200件	62件
衣食住	395件	64件
対人関係の調整	69件	11件
制度	99件	23件
関係機関との連携	250件	59件

6 総合福祉推進事業(厚生労働省受託)

平成25年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業の指定課題11「就労移行支援事業所における発達障害者・精神障害者の就労支援プログラム実施時における課題検討について」に応募し事業受託した。平成25年度は、昨年作成した「就労移行支援事業所における発達障害者の効果的な支援プログラム構築のための実態調査及びマニュアル」の有効性の検証も含め、就労移行支援事業所を対象としたセミナーを全国4か所で実施し、セミナーに参加した事業者2か所(計8事業所)に対して訪問コンサルテーションを行った。事業の進捗管理を行う検討委員会開催し(2回)、報告書にまとめた。

学齢後期発達相談室「くらす」

1 事業概況

平成25年10月1日から学齢後期障害児支援事業を横浜市から受託し、12月に「学齢後期発達相談室くらす」(港南区)を開所し、相談事業を開始した。室長以下5名の正職員(社会福祉士、臨床心理士)を配置し、発達障害のある(疑いを含む)中高生の相談支援および移行期支援として小学6年生の中学校入学にあたっての相談も行った。関係機関訪問や連絡会議等への出席、見学を受入れ、連携支援のためのネットワーク構築に努めた。

2 事業実績(平成25年12月3日～平成26年3月31日)

(1) 相談支援

①年齢構成(実人数)

小学生	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	合計
7名	5名	10名	6名	5名	11名	1名	45名

②相談方法

相談方法	のべ件数
来所	81件
訪問	5件
電話(インテーク相談以降)	37件
その他(FAX、メール等)	19件
合計	142件

③相談対象者

対象者	のべ件数
本人	17件
家族	86件
教職員	14件
関係機関職員	35件
その他	2件

④相談内容(主な相談内容を1つカウント)

相談内容	のべ件数
家庭での対応	62件
学校・通所先での対応	7件
不適応行動への対応	20件
感情コントロール	1件
不眠・情緒面等への医療調整	1件
不登校・ひきこもり	1件
進路	34件
退院後の生活	3件
放課後・余暇活動	8件
その他	5件
合計	142件

(2) 機関連携

ケースカンファレンス(4件)、自立支援協議会・連絡会等(7件)、講師依頼(6件) 事業説明訪問・見学対応(21機関)

ワークアシスト

1 事業概況

平成25年4月からセンター南駅に就労移行支援事業として新設開所した。課長(管理者兼務サービス管理責任者)、就労支援員、職業指導員、生活指導員、第1号職場適応援助者、グループ就労訓練担当者を配置した。

(1) 作業エリアの職業基礎訓練

作業エリアでの職業基礎訓練としてパソコン操作訓練、名刺作成の受付・編集・印刷作業等の模擬的職業訓練を準備した。対人コミュニケーション技能・職業人ルール・就職活動練習等の社会生活技能の学習訓練を少人数グループで実施した。

(2) 企業内訓練

実践的な職業訓練として「パルシステム神奈川ゆめコープ横浜北センター(グループ就労訓練請負型助成金)」「DHLサプライチェーン富士通SPL事業部」の2か所の協力事業所において訓練を実施した。

(3) 障害者雇用サポート

パルシステム神奈川ゆめコープとの業務委託契約に基づき職員を派遣して「ゆめコープ宮前センター」と「横浜北センター」3名の障害従業員への業務支援を実施した。

(4) 第1号職場適応援助者(ジョブコーチ)による就労支援

ジョブコーチによる新規の就労支援とフォローアップを実施した。ジョブコーチ支援後も実施していたフォローアップ対象者の一部を「日吉就労支援センター」に登録して支援の移行を実施した。

(5) 見学や体験実習の受け入れ

見学を適宜受け入れ体験実習の希望者に対して月2回程度(各回3～5日間)の体験実習を実施した。

2 利用者状況(平成26年3月31日時点)

①障害程度

	B1	B2	精1	精2	精3	合計
男性	0	3	0	5	4	12
女性	0	2	0	0	0	2
合計	0	5	0	5	4	14

②年齢

年齢	～19	20～	30～	40～	合計
男性	1	7	4	0	12
女性	0	1	1	0	2
合計	1	8	5	0	14

③新規利用者13名(年齢は利用開始時点)

	入所者	居住区	入所日	障害の種類
1	18歳(男性)	港北区	H25.4.1	高機能自閉症・2級
2	34歳(男性)	港南区	H25.8.20	広汎性発達障害・療育手帳B2
3	24歳(男性)	横須賀市	H25.8.20	広汎性発達障害・2級
4	23歳(男性)	鶴見区	H25.8.20	高機能自閉症・3級
5	23歳(女性)	都筑区	H25.9.25	アスペルガー症候群・療育手帳B2
6	31歳(男性)	保土ヶ谷区	H25.10.29	広汎性発達障害・療育手帳B2
7	28歳(男性)	神奈川区	H25.10.29	アスペルガー症候群・2級
8	30歳(男性)	中区	H25.11.26	ADHD・3級
9	35歳(女性)	港北区	H25.12.10	広汎性発達障害・療育手帳B2
10	27歳(男性)	神奈川区	H25.12.25	アスペルガー症候群・2級
11	29歳(男性)	旭区	H26.1.15	広汎性発達障害・療育手帳B2
12	26歳(男性)	港北区	H26.1.28	高機能自閉症・2級
13	28歳(男性)	港北区	H26.2.13	広汎性発達障害・2級

④退所状況 6名(年齢は退所時)

退所者	居住区	退所日	理 由
26歳(男性)	青葉区	H25. 7. 31	利用期間終了(区役所相談に移行)
29歳(男性)	旭区	H25. 7. 31	企業就労(日吉就労支援センターから就職)
20歳(男性)	都筑区	H25. 11. 1	企業就労
29歳(男性)	旭区	H25. 12. 13	企業就労
25歳(男性)	瀬谷区	H25. 12. 27	精神状態悪化(居住区周辺の通所施設利用)
33歳(男性)	栄区	H26. 1. 31	企業就労

3 ジョブコーチ事業実績(平成26年3月31日時点)

(1) 第1号職場適応援助者稼働実績

担当者：2名 稼働実績：122日 平均稼働日数：10.1日/月

(2) 支援状況

新規支援：9名 雇用後フォローアップ支援：20名 事前支援：5名

(3) 支援事業所

21社(生協1・製造4・小売5・サービス4・IT2・物流3・監査法人1・食品1・老健1・職安1)

(4) 支援内容

総支援件数144件(重複支援あり)

支援計画策定30件 定着支援82件 フォローアップ訪問160件 事前支援37件 ケース会議5件

4 グループ就労訓練事業

(1) 訓練生状況

	性別	障害の種類	訓練期間	帰趨状況
1	男性	広汎性発達障害・2級	H24. 5. 1～H26. 1. 31	企業へ就労
2	男性	自閉症 知的障害・B1	H24. 10. 15～H25. 11. 1	企業へ就労
3	男性	アスペルガー症候群・2級	H25. 4. 15～H25. 12. 20	他施設に入所
4	男性	知的障害・B2	H25. 10. 28～H26. 3. 31	訓練継続中
5	男性	広汎性発達障害・2級	H26. 1. 6～H26. 3. 31	訓練継続中
6	男性	ADHD・3級	H26. 2. 3～H26. 3. 31	訓練継続中
7	女性	知的障害・B2	H26. 3. 10～H26. 3. 31	訓練継続中

5 見学・体験実習参加者

	対 象	内 容	人 数
1	家族	施設見学	22名
2	学校・関係機関	施設見学	17名
3	当事者	施設見学	24名
4	体験実習者(3～5日)	訓練体験参加	14名

横浜日吉就労支援センター

1 事業概況

平成24年度に横浜市単独事業の障害者就労支援センター事業を受託し、平成25年4月から横浜日吉就労支援センターを開所し事業を開始した。体制はセンター長、支援員4名(正職員2名・非常勤2名)の5名体制とした。

①就労を希望する障害者に的確に対応するため相談枠を確保し、待機期間が長くないようにした。

②すでに就労している障害者や雇用企業へのフォローアップに加え、家族等への支援や自立生活を維持するために必要な支援体制づくりのためのコーディネートを行った。

③自閉症・発達障害のある人への就労支援に加え、当センターに支援を求める他の障害

のある人への個別ニーズに対応した。

- ④障害者雇用の義務がある企業を(港北区、都筑区を中心として)リストアップし、神奈川県障害者職業センターやハローワーク雇用援助部門と協力して、業務の切り出しや求職者情報の提供など、事業所支援を行った。

2 事業実績

(1)対象者支援

①相談支援件数

延べ支援件数826件(うち就職に向けた支援574件、職場定着に向けた相談支援1件、就業と生活の両方にわたる相談支援36件)

②新規就職者数 企業就労20名 就労継続A型事業所2名

③新規登録者数 116名 ④離職者数 6名

(2)事業主支援

①神奈川県労働局、東京労働局からの企業情報を受け、神奈川県障害者職業センターやハローワーク雇用援助部門と協力して初めて障害者雇用に取り組む企業に対して、職務の切り出しや求職者情報の提供などを行った。

②神奈川県労働局、神奈川県障害者職業センターと連携して、発達障害者の雇用経験がない企業に対して発達障害者就労支援者育成事業(体験型啓発周知事業)を活用した職場実習を実施した。

事業第3部苦情解決事業：0件

高齢福祉部門

東山田地域ケアプラザ

通所介護事業の1日平均利用者数は19.1名(目標18名)であった。地域包括支援センターは事業周知を目的に他施設を利用して事業展開した結果、相談件数が前年度比で20%増となった。地域活動交流事業は「子育て支援ボランティア」講座や交流会を開催し、安定した子育て支援を展開した。

1 通所介護事業

①利用登録者：57名(平成26年3月31日現在) 男性19名 女性38名

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	3	3	15	17	12	4	3
比率(%)	5.3	5.3	26.3	29.8	21.0	7.0	5.3

②利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	22	26	306
介 護 延べ数	442	468	453	451	464	439	480	454	403	413	400	457	5,324
平均	17.0	17.3	18.1	16.7	17.2	17.6	17.8	17.5	16.8	17.2	18.2	17.6	17.4
予 防 延べ数	57	49	52	56	60	46	50	28	24	28	31	37	518
平均	2.2	1.8	2.1	2.1	2.2	1.8	1.9	1.1	1.0	1.2	1.4	1.4	1.7
1日平均	19.2	19.1	20.2	18.8	19.4	19.4	19.6	18.5	17.8	18.4	19.6	19.0	19.1

③利用終了者：14名

理由	死亡	入院・入所	その他
人数(人)	4	4	6

2 居宅介護支援事業

①契約者数：83名(平成26年3月31日現在)

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	0	0	22	34	15	8	4
比率(%)	—	—	26.5	41.0	18.1	9.6	4.8

②要介護認定調査実施件数：123件

3 介護予防支援事業

①契約者数：106件(平成26年3月31日現在) 内訳：要支援1・42名 要支援2・64名

4 地域包括支援センター

①相談・訪問実績 相談件数：835件 訪問実績：185件

②相談内容内訳

内容	相談	訪問
介護保険	571	145
介護予防事業	2	0
包括的支援事業	2	0
行政サービス	7	3
インフォーマルサービス	28	10
介護・医療	79	19
施設・病院入所	49	2
日常生活課題	167	78
苦情	2	0
権利擁護(虐待含)	46	2
ケアマネ相談支援	53	0

③援助内容内訳

内容	相談	訪問
安否確認・状況把握	478	263
介護・保健等指導助言	10	3
介護保険・行政サービス申請受付	27	34
他機関との調整	315	67
情報提供(サービス・施設紹介等)	511	212
権利擁護(虐待含)	29	1

④自主事業(包括的・継続的ケアマネジメント事業)

事業名	実施回数	目的および内容
ケアマネ情報交換会 (新栄CP共催)	隔月 6回実施 参加者総数155名	目的：①ケアマネジャーの質の向上と情報交換②ネットワークの構築 内容：情報提供。医療連携(意見交換会)
新任ケアマネジャー研修会 (区内5包括共催)	1コース実施 6名参加	目的：新任ケアマネジャーのための情報提供 内容：講座(施設見学会含)の実施
ケアマネサロン	毎月1回 10回実施 参加者総数49名	目的：区内ケアマネジャーのストレス軽減・ 情報交換・ネットワークの構築 内容：勉強会含むサロンの開催

⑤自主事業(権利擁護事業)

事業名(自主事業)	実施回数	目的および内容
介護者のつどい	毎月1回(第4火曜日) 12回/年 参加者総数51名	目的：仲間づくり、ストレス解消、介護知識・技術習得、 情報交換 内容：茶話会、ミニ講座、リフレッシュ効果のある企画
介護技術講座	年4回(120分/回) 参加者総数23名	目的：①正しく安楽な介護技術を習得することによる 介護負担の軽減と虐待予防②個別相談 内容：外部講師の介護技術講座(講義と実技)
権利擁護講座	1回実施 参加者3名	目的：権利擁護制度の普及・啓発 内容：遺産相続等弁護士による無料相談会
知っ得・納っ得・安心講座	年4回 参加者総数49名	目的：権利擁護制度の普及・啓発 内容：成年後見制度、遺言作成、高齢者の住まい 等に関する講座の実施

⑥自主事業(介護予防事業)

事業名(自主事業)	実施回数	目的および内容
介護予防教室	年3回 参加者総数39名	目的：介護予防の普及 内容：難聴・転倒予防・うつ予防講座の実施

⑦介護予防普及強化事業(横浜市委託事業)

事業名	実施回数	目的および内容
やっつく！知っ得！認知症予防	年10回(2H/回) 参加延べ人数132名	目的：介護予防の普及 内容：①認知症予防に関する正しい知識を普及する講座の定期的な開催②閉じこもり予防のためのウォーキングや生きがいつくりに関連した講座の開催

5 地域活動交流事業

①高齢者支援・認知症予防事業

事業名	実施回数	内 容
ゆうゆう東山田	月2回 10回開催 参加者総数451名	目的：自立から要介護2程度の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止 内容：ミニデイサービスの実施
ふきのとう	月2回 10回開催 参加者総数517名	目的：自立から要介護2程度の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止 内容：会食会の実施
ケアプラ談話室	月2回 10回開催 参加者総数142名	目的：自立から要介護2程度の高齢者対象。認知症予防、引きこもり防止 内容：茶話会の実施
生き生きクラブ	活動は随時 定例会1回/月 12回開催 参加者総数76名	目的：高齢者の生活充実、生きがいつくり 内容：介護保険外サービスの実施、地域ニーズにあったサークルの立ち上げ、ケアプラザの庭木の剪定、浴室掃除の実施
歌声喫茶	月1回(10回開催) 参加者総数190名	目的：引きこもり予防、認知症予防、仲間づくり 内容：歌声喫茶の実施

②子育て支援

事業名	実施回数	内 容
ぞうさんくらぶ	月1回 11回開催 参加者総数526名	目的：未就園児とその養育者対象。養育者の仲間づくりと負担軽減、子育てに関する情報提供 内容：サロンの実施
あそびのおもちゃランド	月1回(10回開催) 参加者総数548名	目的：未就園児とその養育者対象。養育者の仲間づくりと負担軽減、子育てに関する情報提供 内容：イベント、お茶の実施、グループの実施
親子体操 こころろぱんだ	月1回 12回開催 参加者総数529名	目的：未就園児とその養育者対象。親子の遊び、仲間作り 内容：インストラクターによる体操教室
体遊び	月1回(6か月) 6回開催 参加者総数45名	目的：未就園児とその養育者対象。親子の遊び、仲間作り 内容：インストラクターによる体操教室
まと赤ちゃんの健康講座(区共催)	年2回実施 参加者総数65名	目的：離乳食期の子どもと養育者対象。仲間づくりと子育てに必要な情報提供 内容：離乳食教室と心育て講座の実施

③障害児者支援

事業名	実施回数	内 容
アフリカダンスくらぶ	月1回 11回開催 参加者総数143名	目的：発達障害の子どもと養育者の交流。子どもの遊びの場の提供 内容：インストラクターによるアフリカダンス教室

④地域支援・ボランティア活動支援

事業名	実施回数	内 容
けあぷら まつり	5月12日実施	目的：ケアプラザの周知、障害者団体・既存サークル団体の発表の場の提供を目的とする祭の実施 内容：東山田連合町内会、ボラ団体と共催
東山田連合町内会 納涼盆踊	8月2・3日	目的：ケアプラザの周知、地域連携。 内容：駄菓子、お面販売
東山田ボランティア 友の会	不定期 26回実施 参加者総数342名	目的：ボランティアの交流・育成 内容：研修会の企画・運営。ボランティア養成のための事業企画、運営
若年性認知症よこはま北 部のつどい	3回/年 参加者総数50名	目的：若年性認知症の方の活動の場および介護者の負担軽減。悩み相談等 内容：交流会 共催：認知症の人と家族の会 神奈川県支部
すみれが丘けやきの会	随時(定例会5回) 参加者総数30名	目的：住民相互の助け合い、介護予防講座 内容：活動のコーディネート、介護予防講座
夕涼みファミリーコンサ ート	1回実施 参加者18名	目的：地域のつながりづくり・ボランティア活動の場の提供 内容：ピアノと声楽のコンサート
貸館団体交流会	2回実施 参加者総数43名	目的：地域のつながり作り貸館ルールの確認 内容：茶話会・団体の活動紹介・お役立ち講座
子どもも大人もボランテ ィア体験	2回実施 参加者総数5名	目的：小中高生のボランティア体験 内容：ボラ講座、ボラ団体・お役立ち参加
子育てボランティア 交流会	1回実施 参加者6名	目的：悩みの共有による負担感の軽減・関係作り・活動の場の拡大 内容：折紙講座と茶話会
福祉教育 (エリア内の学 校と共催) ～職場体験実習～	1回実施 3名参加	目的：福祉教育 内容：近隣の小中学生の福祉体験実習の受け入れ。学校で実施する福祉体験実習への参加。
ケアプラザギャラリー	常設 (毎月更新)	目的：地域活動の紹介とつながり作り 内容：地域で活動する個人やサークルの写真、絵画、書画等の作品展示。

⑤広報活動

- ・ 広報紙「けあぷら通信」 1回約1,600部発行〈4回〉 情報提供を掲載。
- ・ 開催事業ちらし 1回約1,600部発行〈75種類〉
- ・ ホームページ 広報紙の他、自主事業の案内等を掲載。(月1回更新)

6 運営協議会

第1回(平成25年7月2日) 平成25年度事業計画等

第2回(平成26年2月7日) 平成25年度事業報告と平成26年度の事業展開について

東山田地域ケアプラザ苦情解決事業：0件

横浜市本牧和田地域ケアプラザ

通所介護事業の1日平均利用者数は23.3名で、目標24名に近い実績となった。居宅介護支援事業は介護支援専門員4名体制(介護予防支援事業兼務)で1か月平均117件となり、昨年度に比べ介護報酬収入が増加した。地域包括支援センターは「認知症介護者のつどい」を新たに実施した。平成26年度本格実施に向け地域ケア会議を2回開催した。地域活動交流事業は本牧中学校と連携し「ボランティアの会」をはじめ登録団体が参加できる機会を増し、住民の主体的活動の支援に力を入れた。

1 通所介護事業・介護予防通所介護事業

①利用登録者:105名(平成26年3月31日現在) 男性33名 女性72名

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	2	12	22	29	18	12	10
比率(%)	1.9	11.4	21.0	27.6	17.2	11.4	9.5

②利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
稼働日数	30	31	30	31	31	30	30	30	28	28	25	31	355
介護 延べ数	637	618	622	637	621	631	663	675	624	589	522	618	7,457
平均	21.2	19.9	20.7	20.5	20.0	21.0	22.1	22.5	22.3	21.0	20.9	19.9	21.0
予防 延べ数	52	54	58	70	76	74	71	77	64	73	60	80	809
平均	1.7	1.7	1.9	2.3	2.5	2.5	2.4	2.6	2.3	2.6	2.4	2.6	2.3
1日平均	23.0	21.7	22.7	22.8	22.5	23.5	24.5	25.1	24.6	23.6	23.3	22.5	23.3

③利用終了者:40名

理由	死亡	入院・入所	その他
人数(人)	9	14	17

2 居宅介護支援事業

①契約者数:125名(平成26年3月31日現在)

介護度別内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数(人)	0	0	27	42	23	23	10
比率(%)	0	0	21.6	33.6	18.4	18.4	8.0

②要介護認定調査実施件数:107件

3 介護予防支援事業

①契約者数:104件(平成26年3月31日現在)

内訳 : 要支援1 34名 要支援2 70名

4 地域包括支援センター

①相談・訪問実績 相談件数:625件

訪問実績:350件

②相談内容内訳

③援助内容内訳

内容	相談	訪問
介護保険	483	265
介護予防事業	27	14
包括的支援事業	53	18
行政サービス	15	13
インフォーマルサービス	8	5
介護・医療	134	70
施設・病院入所	31	12
日常生活課題	116	71
苦情	5	0
権利擁護(虐待含)	100	77
ケアマネ相談支援	83	32

内容	相談	訪問
安否確認・状況把握	589	347
介護・保健等指導助言	100	66
介護保険・行政サービス申請受付	139	68
他機関との調整	142	92
情報提供(サービス・施設紹介等)	649	355
権利擁護(虐待含)	40	41

④自主事業(包括的・継続的ケアマネジメント事業)

事業名	実施日	対象者	参加人数	共催・協力
ケアマネジメントスキル向上研修	6月14日	ケアマネジャー	30名	本牧原CP・麦田CP共催
安心生活講座 「あんしんノートを書いてみよう」 「相続・遺言の書き方」 「行政書士による相談会」	7月1日 7月14日 9月9日	地域住民	19名 8名 7名	中区社会福祉協議会協力 神奈川県司法書士会協力 神奈川県行政書士会協力
認知症サポーター養成研修	8月7日 8月9日	本牧中学校 間門小学校	6名 33名	
認知症介護者の集い	8月30日 11月22日 2月13日	家族介護者	9名 10名 4名	
介護保険事業所交流勉強会 「地域包括ケアシステムと地域ケア会議」	8月30日	エリア内事業所	17名	
認知症相談会	3回	エリア内事業所	1回の参加 平均3名	有料老人ホーム ヒルデモア三溪園
民生委員・ケアマネ交流研修 「一人暮らし高齢者について」	2月21日	地区民生委員 ケアマネジャー	43名	本牧原CP・麦田CP共催

⑤地域ケア会議

試行的にエリア内事業所に参加依頼をし、12月と2月に2回実施。
12月は28名、2月は12名の参加があった。

⑥体力向上プログラム(横浜市委託事業)

ケアプラザで4回、本牧元町南部町内会で2回、本牧三之谷町内会で2回、根岸町自治会で3回を実施した。

5 地域活動交流事業

①高齢者支援

事業名	実施回数	参加人数	内容
介護予防体操教室 「朗らか体操1・2・3」	月2回	1回の参加 平均20名	一般高齢者等を対象とした介護予防体操教室
楽笑サロン 「さつき会」	月2回	1回の参加 平均15名	一般高齢者等を対象とした、介護予防のためのレクリエーション活動。
認知症予防 学習交流 サロン「なごみ」	月2回	1回の参加 平均7名	従来の簡易計算や音読の他、臨床美術療法を取り入れた認知症予防教室。

②子育て支援

事業名	実施日	参加人数	内容
子育てサロン	月1回	1回の参加 平均10組	子育て中(未就園児)の母親同士の交流や子育てに関する情報提供。
目指せ!イクメンの星	3回	1回の参加 平均2組	子育て中の父親と子どもと一緒に体を動かす遊びを通じて、父親同士の交流を図る。

③障害児者支援

事業名	実施日	参加人数	内容
障害児余暇支援事業	8月19日	児童10名 ボランティア15名	近隣小学校3校の個別支援学級児童養護施設と連携し、夏休みの余暇支援を実施。
ポレポレまつり	10月19日	参加団体数 32団体	障害者団体と地域住民との交流。実行委員として運営を支援。

④ボランティア育成・地域参加支援

事業名	実施回数	参加人数	内容
男性料理教室	4回	1回の参加 平均6.5名	調理実習を通じてシニア世代男性の地域活動参加へのきっかけ作り。障害児余暇支援事業では参加者への昼食作りに協力。
ボランティア交流展	通年	のべ80人	ボランティア自身が活動内容の紹介や活動の感想をメッセージカードに書き館内に掲示。
ボランティア入門講座	7月6日	18名	障害についての理解を深め、夏休みの余暇支援等で活動。中区内6CP、区社協共催事業。

⑤支え合い活動支援

事業名	内容	
ふれあい収集活動	地域の単身高齢者等を対象とし、本牧中学校ボランティアクラブの協力により古紙回収の支援活動を実施。高齢者世帯2件に実施。	
世代間交流会	7月24日	間門小学校「はまっ子ふれあいスクール」(49名)と「朗らか体操」参加者(13名)がペタンクを通して交流を図った。本牧中学校の生徒がボランティアとして5名参加した。
	10月9日	本牧中学校ボランティアの会(21名)と地元老人会の合唱サークル(14名)が歌の発表やレクリエーションを通して交流を図った。今年度は八聖殿郷土資料館の協力で郷土資料を使用した。
エコキャップ収集	発展途上国の子どもへワクチンを寄贈するためのペットボトルのキャップ回収。 回収実績:245kg(約98,000個) ワクチン約122人分	
東日本大震災復興支援 「使い捨てカイロを被災地へ贈る」の活動支援	石巻市女川町の仮設住宅へ未使用の使い捨てカイロを贈る活動を、住民主体で行っている団体の後方支援として、回収箱の設置、住民周知のための広報など行った。3月の回収実績1,072個	

⑥その他

事業名	内容
地域団体の活動支援 (5ヶ所)	地区社協や町内会が行う食事会や茶話会、体操会等の活動支援。 ケアプラザからの情報提供の他、個別相談の機会として活用。
福祉教育支援	近隣小中学校の福祉体験学習の企画、実施。 小学校(個別支援学級) 1校(2回) 中学校2校(4回)

⑦広報活動

- ・広報紙「ぼんぼこだより」 1回約1,600部発行(年4回)
ケアプラザからの情報提供だけではなく、地区社協の活動や地域情報を掲載。
- ・ホームページ 広報紙の他、自主事業の案内などを掲載。

6 運営協議会

- 第1回 平成25年6月12日 平成24年度事業報告
- 第2回 平成26年3月19日 平成26年度事業計画

横浜市本牧和田地域ケアプラザ苦情解決事業：0件